

ケイシー療法で関節リウマチを治す

治療の基本は食事療法と毒素排泄法

アトミダイン+エプソム塩浴+オイルマッサージが
リウマチ治療の三本柱

Sample

第22号の内容

- 関節リウマチの原因
- ケイシーの勧める治療法
- リウマチの治療手順
- リーディング資料

編集・発行 NPO 法人日本エドガー・ケイシーセンター

はじめに

厚生労働省の白書によれば、日本における関節リウマチの患者数は70万人と推計され、毎年、1万5千人が新たに患者になっているとされます。

関節リウマチの患者は年々増加の傾向にあり、すでに100万人を超えていると主張する医療研究機関もあります。男女比は1対4と女性に多く、働き盛りの30~50歳代が発症のピークと考えられています。

リウマチというと、一昔前は長患いの象徴のようなイメージがありました。私の小さい頃は、近所に何人かは、リウマチで寝たきりになっている痩せた老人が居たものです。そういうお年寄りの奇妙に変形した手指を見るたびに、リウマチはなんて怖い病気なんだと子供心に空恐ろしく感じたものでした。

最近では抗リウマチ薬やステロイド、免疫抑制剤、さらには生物学的製剤などの開発により、リウマチ症状の出ない寛解に至る人も増えているとされ、かつてほどの陰惨なイメージはなくなってきたのかも知れません。しかし、リウマチの根本原因は今もって不明であり、関節の変形が進めば人工関節に取り替えるなど、外科手術が施される場合もあります。いずれにせよ、現代医学では痛みをコントロールする対処療法が限界です。

また、リウマチを発病して10年後の状態を調べると、健常者と同程度の生活の出来ている人は15パーセントにとどまり、80パーセントの人は何等かの障害を抱え、残りの5パーセントの人は寝たきりになっているということです。しかも、強いステロイドや免疫抑制剤などを使用するために体への負担は非常に大きく、リウマチ患者は平均寿命が10年も短いそうです。

エドガー・ケイシーの時代にもリウマチは多くの人々を悩ませたらしく、186人に対して250件を超えるリーディングがリウマチに関して残されています。

これらのリーディングを研究することで、初期のリウマチから、関節の変形の相当に進んだ重篤なケースまで、さまざまな病状のリウマチについてケイシー療法による治療指針を得ることができます。

私自身、リウマチの研究がまだ十分ではなかった頃には、なかなか適切なアドバイスを提供することができませんでしたが、ケイシー療法によるリウマチ治療の理解が進むにつれて徐々に成果を挙げられるようになり、最近では嬉しい報告をいただく機会も増えてき

ました。

つい先日も、悪性リウマチで休職を余儀なくされておられた方が、2ヶ月ほどケイシー療法に熱心に取り組まれたことで相当に改善され、じきに復職できそうだという報告をいただきました。嬉しいことです。

ケイシー療法によるリウマチ治療についてはまだまだ研究途上ではありますが、完成を待っていたのではこの先何年かかるかわかりません。ある程度成果が得られるようになった現段階で、リウマチの治療法についてまとめて皆さまに提供することにした次第です。

リウマチを患う多くの方々にエドガー・ケイシーの福音が届けられますことを、それによって生きる喜びと希望が大いに回復されますことを願っております。

2016年3月23日

日本エドガー・ケイシーセンター

光田 秀

Sample

— 免責事項 —

このレポートで紹介しているケイシー療法は、あくまでエドガー・ケイシーが各依頼者に対して与えた情報をもとにまとめたものであり、また、このレポートはいかなる治癒を主張するものでもありません。ここで紹介する方法のいずれかを実行しようとする場合は、各自の責任と判断のもとに、しかるべき資格を有する医師あるいは医療従事者の監督の下に行ってください。

ここで紹介している方法を実行したことで如何なる不利益が生じたとしても、著者ならびに発行元である NPO 法人日本エドガー・ケイシーセンターは一切の責任を免れるものとします。

第1章

関節リウマチの原因

現代医学は、関節を包んでいる滑膜が免疫機構によって攻撃されるところにリウマチの原因があることを突きとめています。ではなぜ免疫が滑膜を攻撃するようになるのかという根本原因についてはまだ解明されていません。

一方、エドガー・ケイシーのリーディングには、免疫機構について直接言及しているものは見当たりませんが、かなりの割合のリーディングが、以下のものを関節リウマチを引き起こす原因として挙げています。

- 排泄不良
- 血液中の化学成分のアンバランス
- 同化不良
- 感染
- 怪我
- カルマ

Sample

リーディングがリウマチの原因として言及したものを頻度順に列挙すると上のようになりますが、背骨の歪みなど、その他にもリウマチを引き起こす原因とされたものがいくつか存在します。

また、リウマチの場合、さまざまな要因が互いに影響し合い、ある種の悪循環を引き起こすことで発病に至るケースが多く、その点においても、特定の原因を指摘することが難しいと言えます。現代医学がリウマチの原因を特定できないのも、リウマチという疾病にそのような性質があるためだと考えれば納得できます。

とりあえず、ここでは上記の原因について、もう少し内容を検討しておくことにします。

1.1 排泄不良

リーディングはさまざまな疾病の原因にこの「排泄不良」を見出していますが、リウマチに関しても、そのほとんどのケースで何等かの排泄不良を指摘しています。

たとえば、50才の男性は次のように指摘されました。

(問) 右膝のリウマチの原因と、その治療法を教えてください。

(答) 体内から毒素を取り除くことである。毒素が体内に再吸収されている。体内で必要となる凝固をまかなうために血液中の赤血球が奪われると、そのために毒素が体内に取り残され、筋肉に神経炎などの影響を与えることになり、そのために、現在見られるような圧迫が筋肉および腱に現れている。リウマチを造り出している毒素を取り除くことだ。その放射が影響されているところの中枢をリラックスさせなさい。バイブレーションを使ってその部分を活性化すれば、身体の不調は取り除かれるだろう。これを行うことだ。 (19-1 50才男性 1929-10-29)

ある女性は肝臓と腎臓からの毒素排泄が不十分であると指摘されました。

肝臓の機能が低下しており、そのために肝臓循環が悪い状態にある。腎臓も、循環が高まり、排泄すべき毒素が過剰にあるために、腰膝下部から膝にかけて、体内から毒素を放出することができず、これらの部位に対する負担が原因で苦痛を生じている。尿酸がすべてというわけではなく、体内の毒素が問題である。

(159-1 成人女性 1923-1-2)

このような毒素排泄が問題となるようなケースでは、食事療法、ヒマシ油パック、腸内洗浄、アトミダインの内服、エプソム塩パック、オイルマッサージなどによって毒素の排泄を促すことが勧められます。

1.2 血液中の化学成分のアンバランス

リウマチのリーディングでかなり頻繁に指摘される原因に、血液の「化学成分のアンバランス」というものがあります。他の疾病でも化学成分のアンバランスが指摘されることがありますが、リウマチではそれがかなり顕著です。なかでもビタミン（特にB群）、ヨウ素、カルシウムの不足から化学成分のバランスが崩れているケースが多いようです。数は少ないですが、カリウムとカルシウムの過剰が原因とされる人もいます。また、塩分の摂りすぎを指摘される人もいます。

特定の化学成分が過剰であるがために、それが細胞組織内で結晶化して炎症を引き起こしたり、あるいは別の化学成分が不足して、分泌腺が必要な成分を合成できなくなるという事態になります。

たとえば、26才の女性は次のように指摘されました。

血液供給は化学反応に関してアンバランスな状態を呈しており——最初は——ビタミンつまり、この体に必須の最良の諸力であったであろうビタミン B-1、F あるいは B-2 が不足していた。

これらが神経の反応、あるいは、神経のビタミン力の不足をもたらしたのである。そのため、交感神経系に障害が生じるとともに、それに引き続き神経が非常に緊張したり、神経が疲労消耗し、その結果として、体の化学的諸力がますます低下したのである。

この状態がまだ顕著な時に、この身体は、カルシウムやヨウ素など——他の必須の諸力が必要とするものをまかなうために、あるいは甲状腺に対する活動や分泌腺力を介した身体機能のために、エネルギーを使い尽くすような時期を経験したのである。

身体系がこれらのものをさらに引き出そうと試みるために、分泌系から供給される神経エネルギーと血液力に、現時点で根本的な障害が生じているのである。

(517-1-6才女性 1941-6-17)

血液の化学成分のバランスが崩れる原因には、食生活の問題の他に、同化系、排泄系のトラブルなどがありますが、厄介なのがこの状態に起因する場合があります。心にネガティブな感情を長年にわたって抱いていた、あるいは、前世から無意識にネガティブな考え方を持ち越していると、それが分泌腺に影響し、結果として血液中の化学成分のバランスを崩すことになります。

1.3 同化不良

同化不良とは、食べた物をきちんと消化吸収し、そこから生命活動の維持に必要な材料を合成するプロセスまでを指しますが、この同化のプロセスにトラブルが生じることでリウマチを発病するケースも相当数あります。

同化不良になる原因としては、もともと食生活が偏っていて、必要な成分が不足していたり、不要な成分が過剰であったりして、バランスが崩れている場合と、消化吸収のプロセスが何等かの理由でうまく機能せず、そのためにせっかくの成分が吸収されていない場合と、消化吸収されたものを合成する肝臓や分泌腺の働きが不足していて同化不良になるケースと、大きく分けるとこれらの3つになります。